

対馬重要歴史年表

区分	時代		西暦	年号	島主・藩主 (宗家)	事項	備考
	韓	日					
先史時代	櫛目文	縄文時代	前 6800			越高遺跡(上県町) 佐賀貝塚 ・吉田貝塚下層(峰町)・加藤遺跡(豊玉町) 志多留貝塚 下層(上県町) 吉田貝塚上層(峰町)	
			" 4000				
	無文	弥生時代	前 2200			住吉平貝塚 (豊玉町) 塔ノ首遺跡 (上対馬町) 中国の三国時代に陳寿(233~297)が著した「魏志倭人伝」に「 対馬国 」に関する模様が記述される。 仁位八口一遺跡(豊玉町)・木坂遺跡(峰町)	
			2世紀後期 3世紀頃				
三韓		3世紀後期					
		古墳	5世紀中期 7世紀末期			根曾1号墳(美津島町) 矢立山古墳(厳原町)	
古代	三国時代	飛鳥時代	608			遣隋使小野妹子 一行・隋使裴世清一行が対馬を通る。 第1回遣唐使派遣。第6回(669)頃まで壱岐・対馬を経由するコースを利用。 対馬国に 防人 を配置し、 烽火 8カ所を設置する。 対馬国に 金田城 を築く。 対馬国与良の地(現在の厳原町国分付近)に国府を置く。 対馬島で産出した銀を朝廷に献上する。 日本で最初の銀の産出 。以後、対馬の調として銀が納められる。 対馬島で産出したと称した金を朝廷に献上。 日本で最初の金の産出 を慶祝して「 大宝 」の年号を建てる。	663 白村江の戦 674 国司の配置 676 新羅の朝鮮半島統一 大宝:わが国最初の連続年号
			630				
			664 667 671				
	統一新羅時代	奈良時代	701	大宝元			
			736	天平8			
			737	9			
平安時代	平安時代	795	延暦14		東国防人の制を廃止。 第16次遣唐使に同行した 最澄 が対馬(阿連)に帰着。 新羅の賊船大小100隻、約2,500人来寇、国司文室義友らの活躍により撃退。 刀伊の入寇 。女真族の賊船約50隻が来襲し、島民36人を殺害。346人を連れ去る。	936 高麗王朝成立	
		805	24				
		894	寛平6				
			1019	寛仁3			
中世	鎌倉時代	高麗時代	12世紀			宗氏の祖、 惟宗氏の対馬入国 。 対馬在庁官人の中に惟宗氏の名が初見(八幡宮文書)。大宰府の命により 惟宗重尚 が阿比留在庁(平太郎国時)を征討したという伝承がある。 元寇(文永の役)。元・高麗軍4万人が小茂田浜に来襲、対馬守護代宗資国以下80余騎戦死。島民被害甚大。 元寇(弘安の役)。元・高麗・漢軍連合の東路軍が日本世界村(峰町佐賀)に来襲とあるが、被害不明。	資(助)国:宗氏系譜の祖
			1195	建久6			
			1246	寛元4			
			1274	文永11	資国(1)		
				1281	弘安4	右馬太郎(2)	
			1345	興国6	盛国(3)	筑前より、二子頼次を派遣し、仁位に政所を開く。 倭寇が高麗を侵す。この頃、頼次が資国を祭神とする 軍神社(小茂田浜神社) を建立。 高麗国王より和平と倭寇の取り締まりの要請あり、家臣を高麗へ派遣。以後、高麗国との通交始まる。 この頃、対馬国守護代から 対馬国守護 となる。	
			1350	正平5	経茂(4)		
			1366	21			
			1378	永和4	澄茂(5)		

区分	時代		西暦	年号	島主・藩主 (宗家)	事項	備考
	韓	日					
中世	李氏朝鮮	室町時代	1398	応永 5	頼茂(6)	筑前より対馬に渡って、館を現在の峰町志多賀に開く。	宗氏の対馬定住の始まり
			1408	15	貞茂(7)	倭寇を鎮めて李氏朝鮮と通交、現在の峰町佐賀を府とする。	
			1419	16	貞盛(8)	応永の外寇 (世宗己亥の東征)。李氏朝鮮国の李従茂に率いられた1万7千人の大軍が倭寇の活躍を封じるため対馬の浅茅湾に来襲、仁位郡の糠岳付近で合戦。	1392 李成桂が 朝鮮新王朝 樹立
			1443	嘉吉 3		李氏朝鮮国と通交条約である 嘉吉条約 (癸亥約条)を結び、歳遣船の定数を定める。	歳遣船定数 50 隻
			1452	享徳元	成職(9)	成職が封を継ぎ、貞盛死去する。朝鮮国王が1隻は甲礼の、1隻は襲封祝賀の使船2隻を送る。	将軍や島主の代替わり毎の告慶
			1456	康正 2		対馬島人源茂崎が漂流民救助の功により朝鮮国王より官職図書(司直の職)を授けられる。(初の受職人)。	参判使の始まり
			1471	文明 3	貞国(10)	申叔舟の 海東諸国紀 が著され、対馬8郡82浦を紹介。	
			1486	18		府を国府(厳原)の中村に移す。	
			1497	明応 6	材盛(11)	対馬国を形のうえで分治していた少弐氏が亡び、名実ともに宗氏が対馬の島主となる。	
			1510	永正 7	義盛(12)	朝鮮で 三浦の乱 が起こり、国交が断絶する。	三浦倭変:日本人
			1511	8		義盛兵を率いて上京し、足利将軍より北近江8千貫(約4万石)の地を与えられる。	居留民の反乱
			1512	9		朝鮮との間に永正条約を締結して、国交を回復する。	歳遣船定数 25 隻
			1526	大永 6	盛長(13) 将盛(14)	盛長仁位の邸にて自刃する。 将盛封を継ぎ、中村の館を池の地に移して今屋敷と称す。	
			1528	享禄元		宗盛治の乱により池の館が焼け、館を金石に移す。	
			1546	天文 15	晴康(15)	島主家以外の傍系が宗姓を称することを禁じる。	
			1552	" 21		検地を行う。(石高8,250石)	
			1564	永禄 7	義調(16)	永正条約による歳遣船25隻の貿易制限を、朝鮮との交渉により30隻に拡大することに成功する。	歳遣船定数 30 隻
			1566	" 9	茂尚(17)	茂尚封を継ぐが、病弱で永禄12年23歳の若さで死去。	
			近世	李氏朝鮮	安土桃山時代	1571	元龜 2
1590	天正 18	義智(19)				義智 、豊臣秀吉の命により朝鮮に渡り、通信使黄允吉、金誠一等を伴って帰国し、京において秀吉が引見する。	
1591	19					義智、朝鮮国に対し秀吉の意を伝えるために釜山に渡るが、朝鮮側を説得できず。秀吉、朝鮮出兵を命ず。府中(厳原)に 清水山城 を築く。	
1592	文禄元					文禄の役 (壬辰の倭乱)(~1595)。義智、小西行長とともに朝鮮へ出兵。諸将の各隊に対馬より通詞を派遣。	第1軍:小西行長 他 18,700 人
1597	慶長 2					慶長の役 (~1598)。義智、1千の兵を朝鮮に出兵。	1598 秀吉死去
1599	4					徳川家康より朝鮮との国交回復を命ぜられる。家臣を朝鮮に度々派遣するも帰国せず。	1606 国書改ざん
1607	12					朝鮮との国交修復。将軍秀忠の襲職を賀する 朝鮮通信使 (回答兼刷還使)が来日し、義智、江戸まで護衛する。	
1609	14				義智、僧玄蘇らを朝鮮に派遣し、朝鮮国と 慶長条約 (己酉約条)を締結する。	歳遣船定数 20 隻	
1611					朝鮮貿易復活。歳遣船1船を釜山に出す。		
1635	16	義成(20)			重臣 柳川調興 が宗氏の 国書改ざん を幕府へ直訴したが(柳川事件)将軍家光の裁きにより調興は津軽へ、外交僧規伯玄方は盛岡に流罪となる。	1615 義智死去 (万松院) 外交監視の輪番僧 以町庵 常駐の始まり。	
1639	16	寛永 12			幕府の命により 釜山倭館(和館) 内に茶碗窯を開き、上納品を焼成する(釜山窯)。		
1647	正保 4		万松院 を現在地の金石山の麓に移す。	山門は1615建造			
1650	慶安 3		佐須に銀山を開く。	中興の英主(宗家の黄金期)			
1657	明暦 3	義真(21)	義真 封を継ぐ。 陶山訥庵 生まれる。				

区分	時代		西暦	年号	島主・藩主 (宗家)	事項	備考
	韓	日					
近世	李氏朝鮮	江戸時代	1659	万治2		阿須川の開削に着工。	
			1663	寛文3		お船江(久田白子船渠)を築造。	
			1669	9		府中金石の館に城櫓(櫓門)を築き、 金石城 と称する。	
			1672	寛文12		大船越瀬戸 を開削。	
			1678	延宝6		棧原の新館落成。釜山の新倭館が草梁に移転落成。	
			1685	貞享2		棧原の南に学校を建て、「 小学校 」と称し、子弟を教育。	
			1689	元禄2		雨森芳洲 、対馬の儒学者として仕え朝鮮外交に活躍。	
			1692	5	義倫(22)	義倫封を継ぐ。	
			1694	7	義方(23)	義倫が病死し、義方封を継ぐ。義方、幼少により、義真が再び国政を執る。	
			1700	13		郷村帳・分限帳を幕府に提出し、10万石以上の格を公称する。対馬藩の貿易銀制限額が3万両に増額される。陶山訥庵の建議による全島の猪狩りが実施される。	
			1703	16		朝鮮国訳使官使船、鯛浦沖で遭難 し乗員112名全員死亡。	1709 猪全滅
			1715	正徳5		原田三郎右衛門が陶山訥庵の入手した甘藷の種の栽培に成功する。	甘藷は後に対馬から朝鮮へ伝わる。
			1717	享保2		久田村で陶器製造始まる。	1730 大地震
			1718	3	義誠(24)	義誠封を継ぐ。	1732 訥庵死去
			1730	15	方熙(25)	方熙封を継ぐ。1月20日夜半大地震発生。	
			1732	17		府中大火。消失家屋1,299戸、寺院・神社31。	
			1734	19	義如(26)	幕府より米1万石の救援を受ける。義如封を継ぐ。	1755 芳洲死去
			1759	宝暦9	義蕃(27)	府中再び大火。幕府より米1万石の救援を受ける。	
			1776	安永5	義暢(28)	府中大火。消失家屋1千戸。幕府より米1万石の支援救援を受ける。	
			1780	10	義功(29)	幕府より朝鮮人参貿易資金8万両を借入れ。	
			1785	天明5		朝鮮貿易のうち私貿易の断絶を申告し、幕府より毎年1万2千両の給付を受ける。	
			1785	天明5		幕府への返金延期を承諾される。総額15万2千両余。	1792 島原大変
			1793	寛政5		義功死去するも、偽装によって藩主の死を秘す。	1809 津島紀事
			1793	寛政5		幕府の命による辺要の防備体制を整える(遠見番所)。	1811 易地聘礼
			1797	9		異国船が近海に出没。釜山倭館(和館)にも兵を置く。	
			1811	文化8		朝鮮信使の江戸参礼を改め、聘礼式を府中(巖原)において行う。	
			1813	10	義質(30)	伊能忠敬 の測量隊19名府中に到着。	
1817	14		易地聘礼の行賞として肥前筑前他に2万石の加増あり。				
1834	天保5		朝鮮の凶作及び王城焼失により貿易途絶し、幕府より1万両を借入れ。				
1839	10	義章(31)	郷村給人中の功労者に本家瓦葺を許す。				
1841	12		この頃より府中の各所に防火壁を築く。				
1843	14	義和(32)	幕府、信使聘礼地を大坂に変更する旨を対馬藩に通知。	1844 今屋敷の防火壁			
1859	安政6		英艦アクティオン号が尾崎湾に入る。薪水補給し退去。				
1861	文久元		露艦ボサドニック号 が尾崎浦に入り、 芋崎 を半年にわたり占拠し、外交問題となる。				
1862	2	義達(33)	大島友之允、対韓策を幕府に建白。	勝井騒動による受難者約二百数十名			
1862	2		対長同盟成立。				
1863	3		対馬藩に攘夷の勅書及び御沙汰書下る。				
1864	元治元		藩校日新館 設立。異国船黄浦に入る。勝井五八郎、壮士を率い攘夷の急進派に大弾圧を加える。(勝井騒動)	1865 以酈庵輪番僧の廃止			
1864	元治元		勝井五八郎誅せられ、その残党も処刑される。				
1865	慶応元						
近代	明治時代	1868	明治元		義達、藩兵を率いて大坂行在所に至り八幡の守衛に就く。京に上り、朝鮮通交につき建言。朝鮮国に政権が天皇に帰したことを通告。		
		1869	2		義達、6月19日 版籍奉還 する。府中を 巖原 と改称。義達(重正) 巖原藩知事に任ぜられる。		

区分	時代		西暦	年号	島主・藩主 (宗家)	事項	備考
	韓	日					
近代	李氏朝鮮	明治時代	1871	明治 4		重正、知事の職を免ぜられる。 廃藩置県 。8月7日厳原藩を厳原県と改称。9月4日に 伊万里県 に合併。	1872.8.17 長崎県出張所設置(厳原支庁)
			1872	5		5月29日佐賀県と称する。8月17日 長崎県 へ移管される。韓語学所を久田道光清寺に開設。	1876 朝鮮国の開港に関する 江華島条約 締結
			1878	11		厳原中学校創立。	1878 上県郡 45 村
			1880	13		韓語学所を東京外国語学校(現在の東京外国語大学)に移管。	1878 上県郡 45 村
			1884	17		上下部総町村会(のちの対馬総町村組合)結成。	下県郡 10 町 64 村
			1886	19		厳原支庁を 対馬島庁 と改称。	
			1896	29		総町村会解散し、総町村連合会と改称し発足。	1894~1895
			1900	33		日本海軍が 万関運河 を開削。(幅25m、深3m)。	日清戦争
			1905	38		5月27日、 日本海海戦 (対馬沖海戦)に大勝。	1904~1905
			1908	41		総町村連合会を上下県郡総町村組合と改組。	日露戦争
			1910	43		厳原、竹敷、鶏知電話局が開設される。	1910~1945
			1912	45		電灯が初めて厳原に灯る。	日韓併合
	大正	1919	大正 8		対馬の各町村に改めて普通町村制を施行。	1914~1918	
		1926	15		対馬島庁と各郡役所を廃止し、 対馬支庁 を置く。	第1次世界大戦	
	大韓民国	昭和時代	1931	昭和 6		対馬島産業の振興、対馬縦貫道について帝国議会で陳情。	1929 世界恐慌
			1934	9		上下県郡総町村組合を対馬総町村組合と改称。	1931 満州事変
			1945	20		対馬~博多間の定期船 珠丸 が壱岐勝本沖で触雷、 沈没 し、545人遭難。	1941~1945 太平洋戦争
			1946	21		5月、対馬総町村組合議会で福岡県への 転県決議 がなされる。転県期成会の結成。6月、福岡県で壱岐・対馬転県期成会結成し、国に働きかけた。7月、壱岐に転県期成会結成。9月、長崎県議会で転県の提案否決。対馬支庁上県出張所を設置。	
			1948	23		県立対馬高等学校と県立対馬女子高等学校が、県立対馬高等学校として統合発足。	1948 大韓民国成立
1949			24		対馬開発案 12億円を対馬町村長協議会が決定し請願、県議会で14億円に増額採択、政府次官会議で対馬開発5ヵ年計画決定される。対馬町村会は、対馬開発計画実現のため、 転県運動中止声明 を発表。	1950~1953 朝鮮戦争勃発	
1951			26		対馬沿岸商船会社を九州郵船会社が吸収合併。対馬総合開発地区指定閣議決定。		
1952			27		対馬総合開発案 25億円を県対馬支庁と地元で策定し、政府に陳情。	1953	
1955			30		町村合併 (上対馬・美津島・豊玉・上県)により13町村が9町村となる。	離島振興法成立	
1956			31		万関橋 (アーチ橋)完成。 町村合併 (厳原)により9町村が6町村となる。		
現代	昭和時代	1957	32		李ラインの損害賠償を県知事に陳情。		
		1960	35		厳原発電所増設により下県全地区昼夜送電開始。		
		1964	39		水陸両用機(グラマンゲース)による航空路(竹敷~大村)運航開始するも、赤字経営で翌年運航停止。		
		1965	40		ヘリコプターによる不定期航路(厳原~福岡)運航するが、6ヵ月で運航停止。	1965 日韓基本条約締結により国交回復	
		1968	43		対馬縦貫道路開通 。厳原~上対馬自動車通行が可能となる。		
		1972	47		「フェリーつしま」が厳原~博多航路に就航。		
		1975	50		10月10日、対馬空港開港。対馬~福岡間空路開設。対馬縦貫道路が国道に昇格する。		
					前年の豊玉町に続き、峰村に町制が施行され、6町となる。		
		1976	51		対馬~長崎間空路開設。		

